

# 岐阜県博物館 ～51年5月開館

## ～美濃の自然・風土と調和した近代的施設～

山田直利（地質部）・正井義郎（企画室）

### 1 はじめに

岐阜県百年記念事業の1つとして建設がすすめられてきた 県立博物館が 岐阜市の東方 関市おき小屋名なの百年公園の一角に完成し 本年5月5日に開館した。筆者らは 開館後もまもない一日 短時間ではあるが 館内を見学する機会があったので ここに簡単に紹介したい。

この博物館の建設計画がかたまったのは 昭和46年3月であり 工事は48年7月に着手された。本館建設費に約15億円 展示関係に約4億円の費用が投ぜられたときいている。計画がかたまってから 石油危機と狂乱

物価 総需要抑制と長期的不況という 困難な事情がつづいたなかで 今日完成をみたかげには 関係者のなみなみならぬ努力があったことが 察せられる。

岐阜県は 美濃・飛騨両国を合してつくられた “濃飛” の国であり “飛山濃水” の地ともよばれる。その自然環境は 北は 海拔3,190mの奥穂高岳をピークとする日本アルプスから 南は 海拔ゼロメートルの輪わ中地帯ちゅうまで まことに変化にとんでいる。地学的にも先カンブリア時代から第四紀まで テーマに不足はない。日本史の上からは 東西政治勢力の接点として 重要な

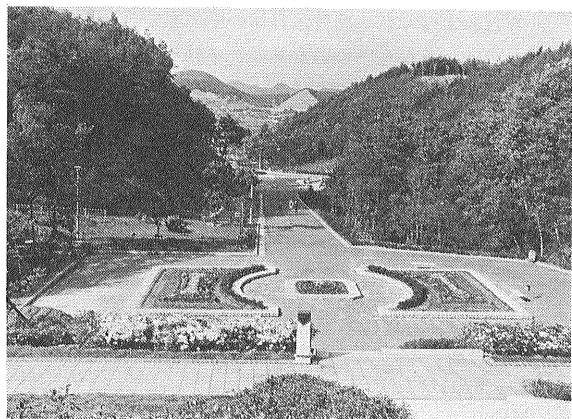


写真1 岐阜県百年公園(北入口)

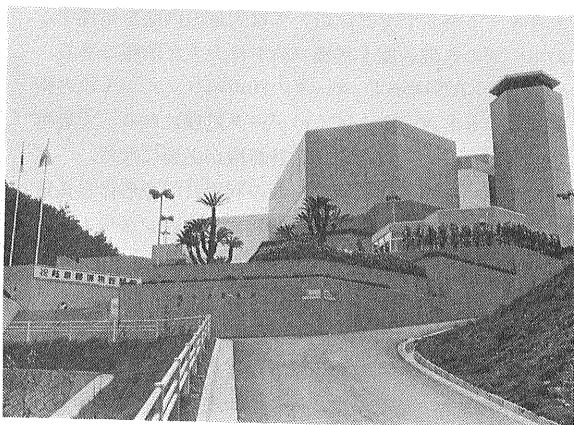


写真2 岐阜県博物館の全景

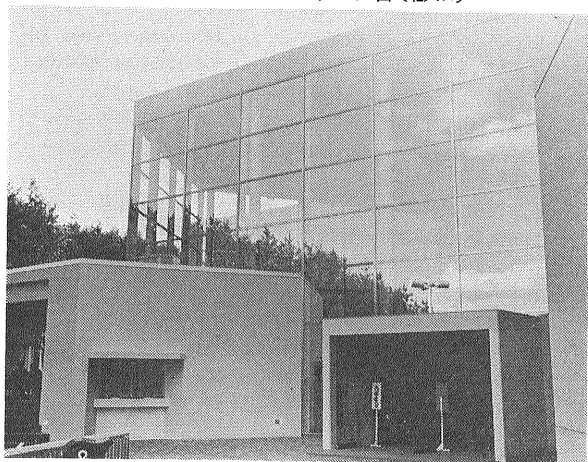


写真3 博物館入口

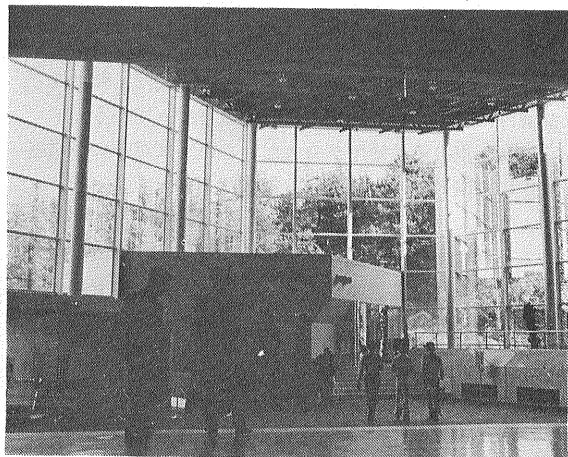


写真4 玄関ホール

役割を果たしてきた。数年前に放映された NHK大河ドラマ「国盗り物語」はまさに美濃の国の物語であった。

このような岐阜県の風土・自然・歴史のすがたを多くの人につたえる博物館がかねてから期待されていたが今回 予想をこえたすばらしい形をとって 私たちの前に姿をみせたのである。

「この博物館は……飛山濃水の中ではぐくまれてきた本県の姿を人文・自然分野の諸資料によって公開展示し あわせて諸資料に関する調査研究・情報サービス等を行い 広く県民文化の向上を図ることを目的として建設された 総合博物館です。」(案内書より)

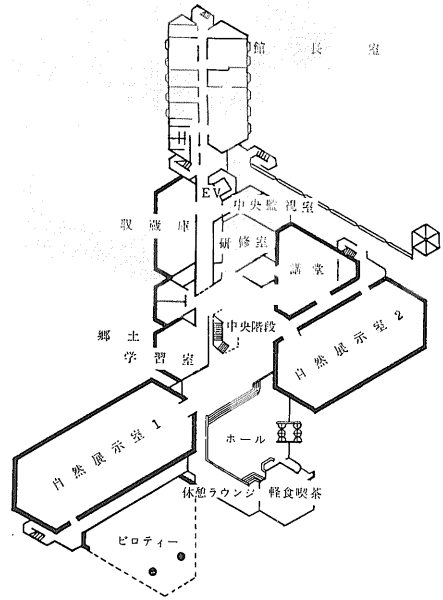
### 2 百年公園から博物館へ

岐阜市内から名鉄美濃町線にそって 国道156号線を東にすすむと 20分ほどで 名鉄小屋名駅前を通過する。小屋名から津保川(長良川の支流)をへだてた対岸の丘陵地帯に 岐阜県百年公園がつけられている。この公園は 山林を最大限に保存し その周囲をサイクリングロード・芝生広場・フラワーガーデンなどでふちどった文字通りの自然公園である(写真1)。

公園入口で自動車を降り 正面道路の噴水池を右に曲り 小高い丘をほとんど登りつめたところに 白亜の岐阜県博物館が 目のまえに 大きく立ちはだかっている(写真2)。こころにくいばかりの めぐまれた立地条件である。

### 3 博物館 1 階の施設

1階の博物館入口(写真3)から1歩足をふみ入れると ころは思いきったスペースが玄関ホールのためにさかれ



第1図 1 階 平面 図

ている。採光もきわめてよい(写真4)。その一隅には ラウンジとティールームがあって 見学者のつかれをいやしてくれる。

1階の施設の配置を 第1図に示した。ホールの左右に 自然展示室(I・II)がある。これについてはあとでゆっくりふれよう。その奥には 郷土学習室 講堂 研修室 収蔵庫などがある。

郷土学習室(写真5・6)は 岐阜県に関する図書・標本などをおいて 自由に閲覧・観察ができるようになっており 利用する際のルールが入口に簡明に記されている。「見るだけの博物館」から「さわってたしかめ

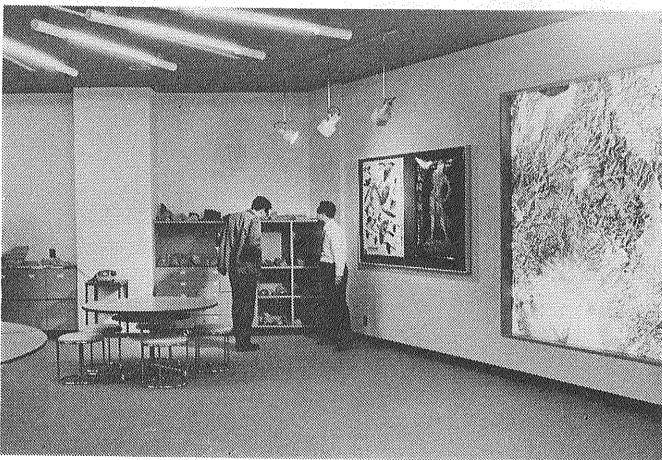


写真5 郷土学習室の一部 右側の壁にはアーツによる中部地方の衛星写真

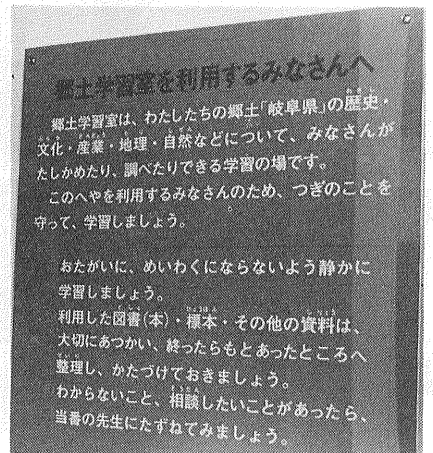


写真6 郷土学習室の利用のルール

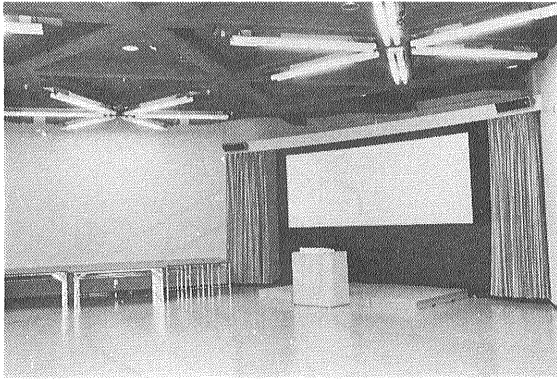


写真7 講 堂

てみる博物館」への努力がうかがわれる。

講堂は100人以上を収容できる広さがあり（写真7）映写室の設備もととのっている。ここでは博物館関係の会議や普及講演などがおこなわれる。

#### 4 自然展示室 I

面積約580m<sup>2</sup>のこの展示室は「郷土の自然とおいたちを主題として 岩石と化石により 郷土の大地と生物の変化をたどり 山と川の二つの面から現在の自然の特徴を またそこに住む人とのかがわりの例を示す」（案内書より）。

展示内容は さらに「自然のおいたち」「自然のすがた」「自然とひと」の3つの部分に分けられる。

「自然のおいたち」の部では 地球生成時から第四紀にいたるまでの 地球上の諸作用が 岐阜県を例として系統的に展示されている。はじめにその項目のみを

挙げる。

- イン石は語る（美濃イン石・生命の発生など）
- 礫岩のなぞ（日本最古の岩石・上麻生礫岩）
- 飛驒片麻岩（コランダム片麻岩・球状片麻岩など）
- デボン紀（福地）の海
- ペルム紀（赤坂）の海
- 三畳紀（春日）の海
- ジュラ紀の海
- 白亜紀（荘白川）の湖畔
- はげしい噴火（濃飛流紋岩）
- デスモステルス（瑞浪層群）
- 平牧（可児）の森
- メタセコイアの沼地
- 火山の誕生
- 濃尾平野のなりたち
- 美山（郡上）の動物たち

これらの展示のうち とくに筆者らの印象につよく残ったものだけを 写真を中心に紹介してみたい。

#### 上麻生礫岩（写真8・9）

現地の露頭（加茂郡七宗村）の写真をバックに 2mにおよぶ大型標本の展示。小窓から 日本ではじめて先カンブリア時代を示す鉱物年代（15～17億年）が測定された 珪線石片麻岩の礫がみえる。この露頭のめばしい片麻岩礫は あらかたとりつくされた といわれるだけに貴重なものとなろう。

#### デボン紀の化石

吉城郡上室村福地から採集された サンゴ・三葉虫・層孔虫などの化石と デボン紀の古地理図・ジオラマ。なお最近この付近（ひとえがね地区）から シルル紀の三葉虫も発見されている。



写真8 上麻生礫岩の展示。右側には飛驒のコランダム片麻岩や球状花崗岩の大型標本とそれらの形成史

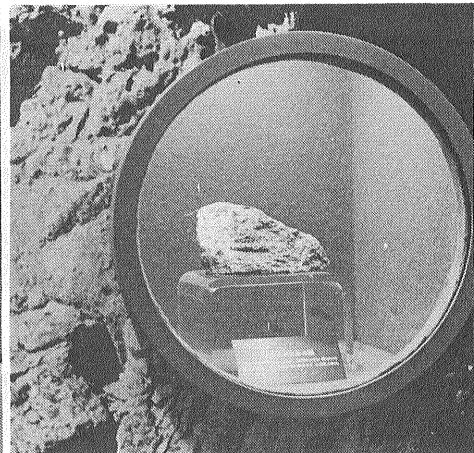


写真9 上麻生礫岩中の珪線石片麻岩の礫 バックは露頭の写真

二疊紀の枕状溶岩(写真10)

揖斐郡藤橋村横山ダム上流の緑色岩層中に発見された Basalt pillow の大型標本と 海底噴火モデル図。



写真10 二疊紀の海底噴火でできた枕状溶岩の標本とその形成モデル

ジュラ紀の連痕(写真11)

大野郡荘川村の手取統(九頭竜亜層群御手洗層)にみられる連痕(ripple mark)を示す砂岩の大型標本(向って右側)。同じもののレプリカ(左側)は2×2mの大きさと 実物以上の迫力がある。連痕には 風成連痕 水流連痕 波連痕などの種類があるが ここにみられるのは 非対称型の断面をもつ 水流連痕である。

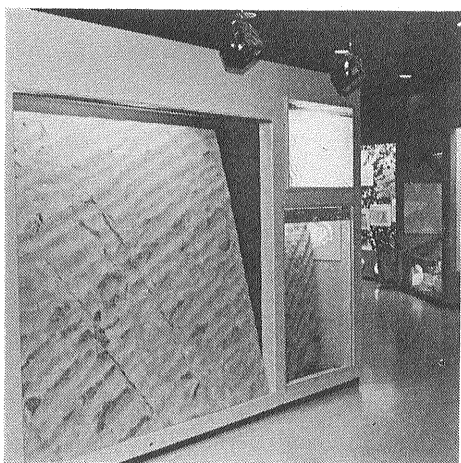


写真11 ジュラ紀の海 手取層群の砂岩層にみられる連痕

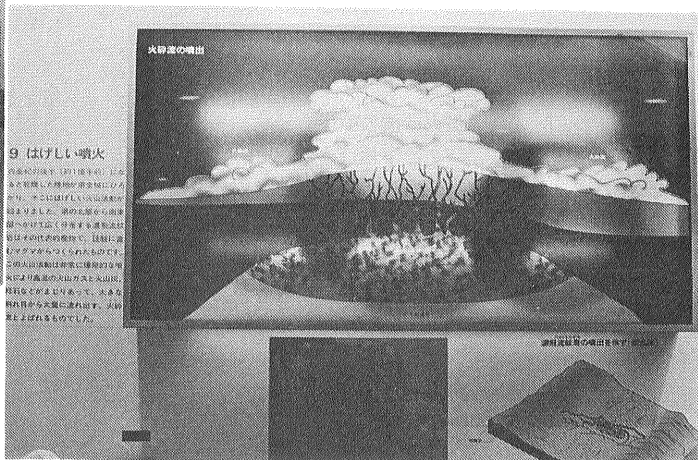


写真12 火砕流の噴出を示すポラビジョン

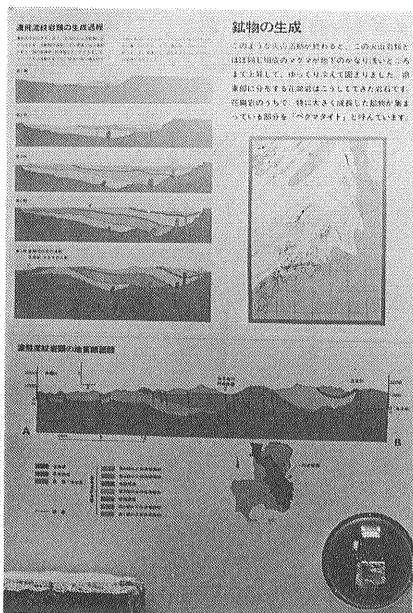


写真13 濁飛流紋岩の生成過程を示す模式断面図

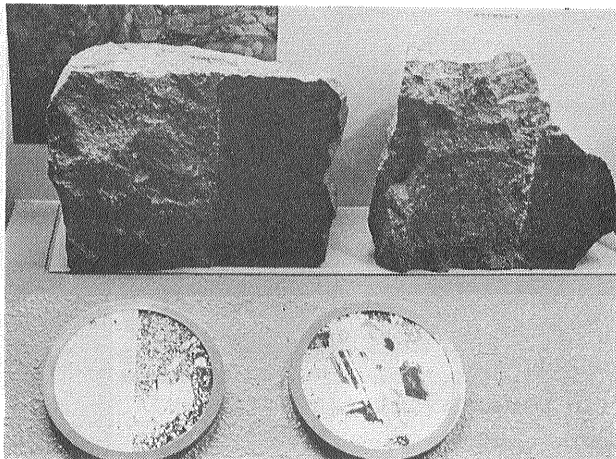


写真14 溶結凝灰岩とその顕微鏡写真(カラーコルトン)

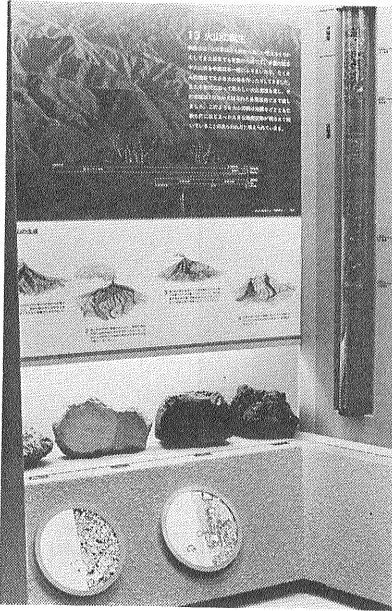


写真15  
御岳火山の形成史  
と噴出物 左側  
の円筒は濃尾平野  
第四紀層の柱状断  
面コア

### 濃飛流紋岩 (写真12・13・14)

岐阜県の火成活動史のうちで メイン・イベントとよぶにふさわしい 超大型火砕流の噴出を示す ダイナミックなポラビジョン。 その下には 通称“田島”のventとよばれる 濃飛岩体西縁の火道角礫岩（益田郡金山町田島）の大型標本と露頭写真。 右側には 濃飛流紋岩の生成過程に関する最新の説（濃飛流紋岩団体研究グループ提供）が 模式断面図の形でえがかれている。 溶結凝灰岩の標本と顕微鏡写真（カラー・コルトン）が ペアになって展示されているのは 理解しやすい。

### 御岳火山の誕生 (写真15)

登山よりも信仰の山として 古くから親しまれている御岳山の発達史を 4期に分けて説明する。

### 坂下の阿寺断層 (写真16)

根尾谷断層とならんで 県下の左横ズレ性の活断層として 著名。 断層による変位量が 高位の段丘面ほど大きくなっている様子が 立体模型で示される。

### 美山のオオツノジカ (写真17)

郡上郡八幡町美山の洞穴堆積物から発掘した骨格をもとに復元したオオツノジカ。 日本では山口県とここの2ヶ処でしか知られていない。

これにつづく 第2部「自然のすがた」では 現在の岐阜県の自然から 以下の題材をとって展示している。

- |        |       |
|--------|-------|
| 飛騨の山やま | 地熱と温泉 |
| 乗鞍岳の生物 | 美濃の河川 |
| ブナの原生林 | 地下水   |
| 湿原     | 池沼の生物 |
| しょう乳洞  | 河川の生物 |

第3部は「自然とひと」のコーナーである。

- 水の利用
- 森林の役割
- ギフチョウ
- 天敵
- 中央自動車道恵那山トンネル (写真18)

### 5 自然展示室 II

「郷土のさまざまな自然」を主題として 岐阜県の特徴ある動植物・鉱物などが 課題ごとに つぎの15のコーナーに展示されている。

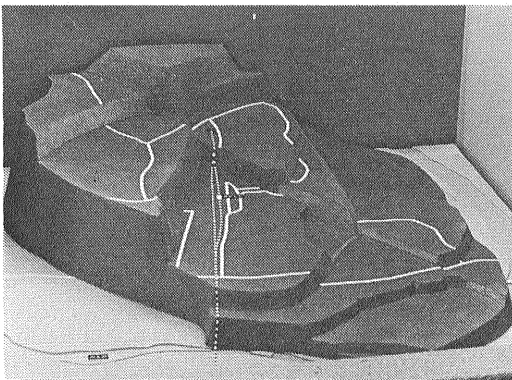


写真16 阿寺断層による変位地形の立体模型 (中央線坂下駅付近)



写真17 八幡町美山の洞穴から発掘されたオオツノジカ

郷土の概況	植物
生物の系統	県の木(イチイ)
岩石	県の花(レンゲソウ)
鉱産資源	県民の鳥(雷鳥)
近代農業	震災と防災
天然記念物	雪と生活
鳥獣の保護	ウとアユ
軟体動物	

「郷土の概況」のコーナーには 岐阜県のレリーフ模型(1:150,000)に 地勢図・地質図・植生図・自然度図が あざやかな色彩で塗色され 見学者の目をひいていた(写真19)。「岩石」のコーナーには 岐阜県を代表する18個の岩石標本とその顕微鏡写真および関連する露頭の写真が 展示されている(写真20)。「鉱産資源」のコーナーは 神岡鉱山と東濃のウラン鉱床を中心とする展示である。

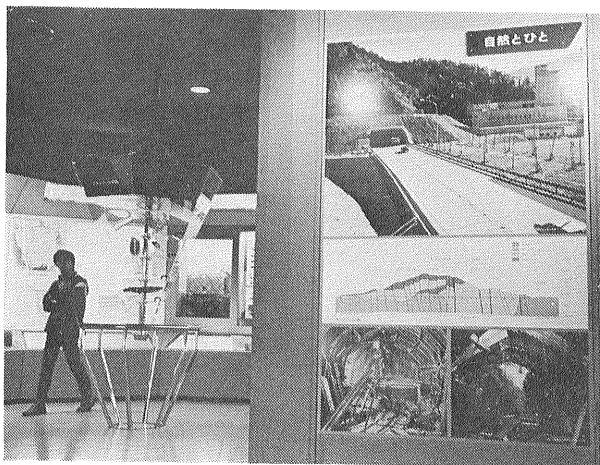


写真18 中央道恵那山トンネル 中央は地質断面図 その下は破砕帯とたかかった記録写真

## 6 人文展示室 I・II

人文展示室は ちょうど自然展示室の真上にある。

人文展示室Ⅱでは 「郷土のあゆみを主題として 郷土の歴史遺産を 原始時代から近・現代にかけ 実物資料等をもちいて総合的に展示している」(案内書より)。つぎの5つのコーナーに分かれている。

郷土のあけぼの—先土器・縄文・弥生・古墳—(写真21)  
濃飛両国の成長—飛鳥・奈良・平安—  
地方信仰  
武家社会  
濃飛の江戸時代(写真22)  
郷土の100年(写真23・24)

人文展示室Ⅱには 「郷土の美術工芸を主題として 郷土の文化的遺産や長い年月うけつがれてきた伝統工芸品を展示している」(案内書より)。 自然展示室とはう

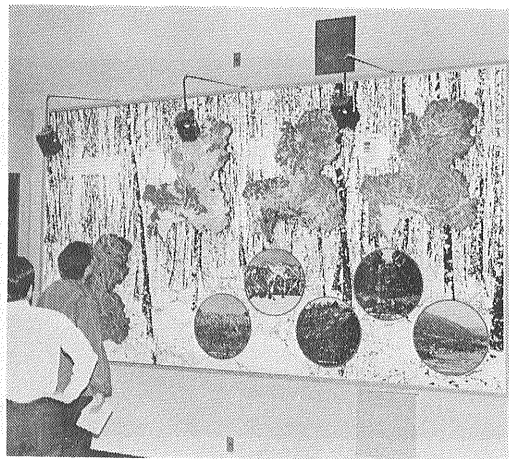


写真19 岐阜県のレリーフ模型 右から自然度図・植生図・地質図



写真20 岐阜県の代表的な岩石標本とその顕微鏡写真(カラーコルトン)

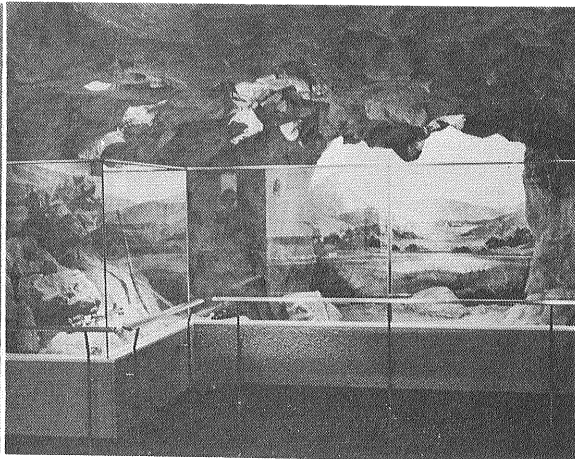


写真21 洞穴のくらし(ジオラマ) 武蔵川の石灰洞を復元したもの

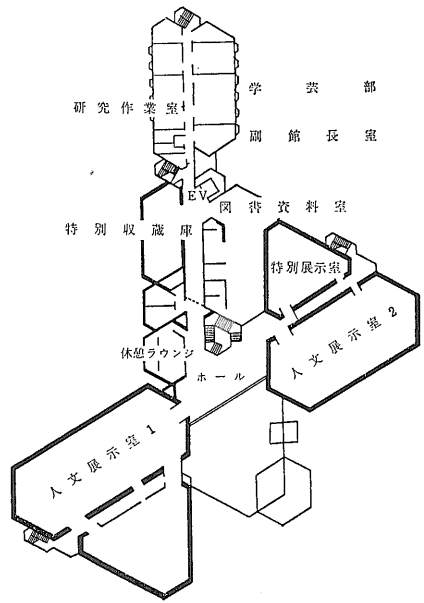
つてかわったひろびろとしたスペースに 仏像 神事芸能にかかわる美術品 幕末・明治の文人書画および伝統工芸品が展示されている。岐阜県の誇る伝統工芸として 刀剣（美濃・関の刀剣を中心に） やきもの（美濃焼を中心に） 飛騨春慶漆器 飛騨の彫刻（一刀彫）の4つが挙げられていることは いうまでもない。

## 7 2階の展示・施設

2階には 人文展示室のほかに 特別展示室がある。筆者らの見学したときには 岐阜県の生んだ偉大なる芸術家 画家川合玉堂（故人） 画家前田青邨 陶芸家荒川豊蔵の3氏の作品が展示されていた（写真25）。ほかに図書資料室 収蔵庫 学芸部の研究作業室などがある（第2図）。

## 8 地階には

地階は おもに収蔵庫と空調機械室にあてられている



第2図  
2階平面図

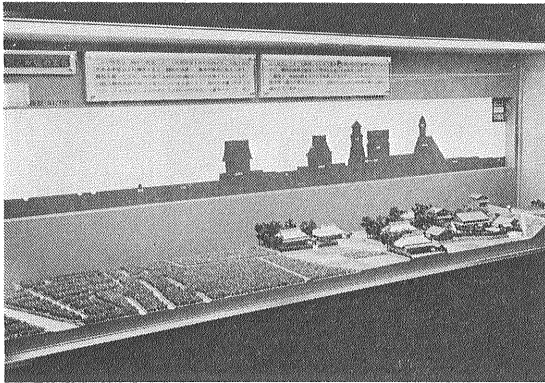


写真22 輪中のくらし 木曾・長良・揖斐三川にかこまれた地帯の水防のための集落組織 水位の上昇による氾らんの様子が動く断面としてうつし出される

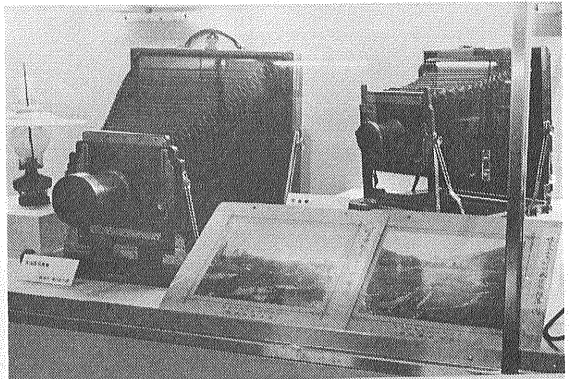


写真23 明治24年の濃尾地震による「根尾谷水鳥村田園地盤陥落之図」（右側）と それを撮影した当時の英国製四ツ切大型写真機



写真24 発足当時の岐阜県庁舎（左）と現在の岐阜市菟田の新庁舎（右）

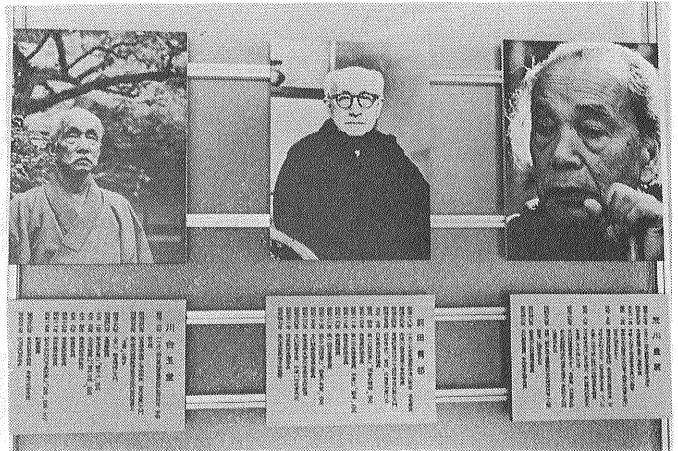
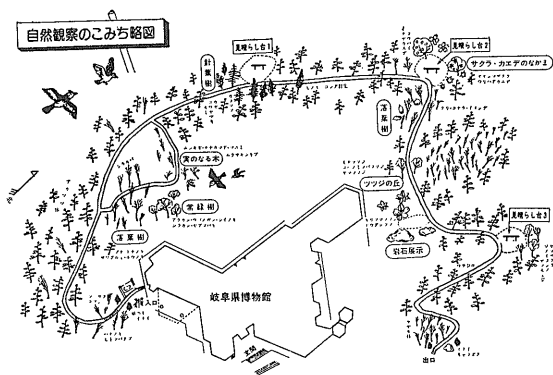


写真25 岐阜県の誇る巨匠たち（特別展示室）



第3図 野外施設 ～自然観察のこみち～

が写真室 ガス滅菌室 石工室 工作室などの諸施設もそなえられている。

### 9 野外施設—自然観察のこみち—

館内展示を見終わったあとは600mのこみちを散歩するとよい(第3図)。ここは「館内における「郷土の自然」の展示に対応し、自然の環境の中の生きた展示物として、季節とともに移り変わる自然の姿を見る場」(案内書より)である。見晴し台からは、遠く御岳・乗鞍岳・恵那山・伊吹山などがみられる。こみちにそい、館内に展示された岩石標本と同じものが、各処におかれている。

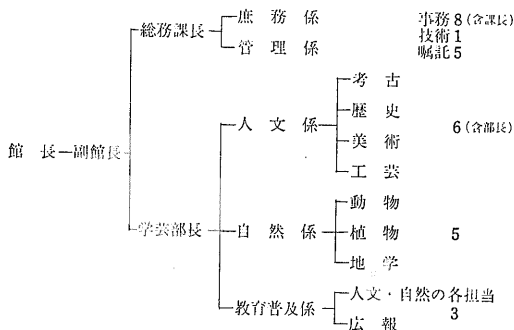
### 10 規模・予算・組織など

- 敷地面積 11,600.0m<sup>2</sup>
- 建築面積 3,760.3m<sup>2</sup>
- 建築延面積 8,792.2m<sup>2</sup>
- 構造 鉄筋コンクリート造りおよび鋼管造り
- 地下1階 地上2階
- 設備 冷凍機・空調・換気・排煙・自動制御・消火・盗難防止設備など
- 設計・監理 岐阜県総務部管財課 株式会社日建設計
- 建築工事 大日本土木株式会社
- 展示工事 丹青社(自然)・乃村工芸社(人文)
- 組織・運営 第1表参照。このうち嘱託員は見学者に対する解説や展示物の管理をおこなう。このほか建物の管理(外注)に常時2～3名が従事している。

### 11 おわりに

岐阜県内の自然科学系の博物館としては、<sup>さんしやう</sup>金生山化石館(不破郡赤坂町)・ひだ自然館(吉城郡上宝村福地)・瑞浪市化石博物館などがある。瑞浪のものについては地質ニュース第242号に近藤善教氏が紹介記事を書い

第1表 岐阜県博物館の組織



ておられる。しかし、なんとといっても、岐阜県博物館は、県がその財力と智力をかたむけて建設しただけあって、総合博物館とよぶにふさわしい内容をもっている。展示物が学術的に価値が高いたくだけでなく、展示効果も近代的であり、ざん新な建築とあいまって、充分に見学者を堪のうさせてくれる。展示の内容をカラーで紹介できないのが心のこりではない。展示の説明文が簡単すぎる(すこしつこんだ説明文を小文字でそえてはどうだろうか)ことなど、まったく不満がないわけではないが、時間をかけておいおい改善されるものと思う。岐阜県人といわず、地学に関係するものにとって、一見に値する施設である。

この記事をもとめるにあたって、岐阜県博物館の松尾克美副館長・笠原芳雄学芸員の両氏および地質調査所地質部の河田清雄・神戸信和の両技官から、御協力をいただいた。あつく感謝の意を表したい。

最後に、見学者のためのメモを付記しておく。

#### 利用案内

- ・開館時間 4月～10月：9時～16時30分  
11月～3月：9時30分～16時30分
- ・入館料 小・中学生 50円(団体30円)  
高校・大学生 100円(団体50円)  
その他 150円(団体100円)  
(ただし51年9月末まで無料)
- ・休館日 月曜日および祝祭日の翌日  
12月27日から1月4日まで
- ・道順 名鉄美濃町線または岐阜バス<sup>おやな</sup>小屋名下車  
徒歩15分
- ・所在地 関市小屋名(〒501-32)  
電話 関<05752>8-3111